

利根川上流ダム群は夏期の貯水池運用へ移行しました

記者発表資料

関東地方は6月2日に梅雨入りし、季節は本格的な洪水期を迎えることとなります。利根川上流ダム群は、台風・集中豪雨時などの河川の流水の一部を貯留（「洪水調節」といいます）するための容量（1億1,814万m³）を確保するため、夏期制限水位へ貯水位を下げ運用することとなります。

7月1日0時現在の利根川上流8ダムの合計貯水量は3億4,630万m³で、夏期制限容量（3億4,349万m³）に対する貯水率は約101%となっています。

本年は、奥利根流域の雪解け水とともに春期の豊富な降雨により、現在まで利根川の流量も比較的豊富で、平年を超える貯水量となっています。

利根川沿川では、これから暑さとともに本格的な水需要期を迎えます。ダムの容量が満水であっても、水需要に応じ最大でダムの貯水量のうち1日約1千万m³の放流（「ダム補給」といいます）を行うため、34日程度の蓄えしかありません。気象庁発表の関東甲信地方の3ヶ月予報では、晴れの日が多く、降水量は少ない確率が40%とのことです。仮に平成16年のような猛暑や平成19年度の観測史上国内最高気温の更新などの酷暑が続くとダム補給が連続し、渇水となるおそれもあります。近年では、平成6、8、13年には取水制限になりました。

なお、非洪水期から洪水期へ移行するにあたり、ダムの洪水調節に支障をおよぼさない範囲で洪水調節容量の一部に水を貯水し、これを適切に放流することで河川環境の保全と向上に役立てる等の弾力的な試験的運用を藺原ダム・下久保ダム・草木ダムの3ダムで行います。今年度の各ダムの運用量は藺原ダム最大180万m³・下久保ダム最大110万m³・草木ダム最大100万m³の合計390万m³となっており、ダムの弾力的な運用の効果を検証していきます。

今後の降水量によっては、ダムの貯水量が著しく低下していく可能性があります。当事務所では引き続き関係機関と連携し、きめ細かいダム運用を行っていきます。

水は生活と産業を支える貴重な資源です。有効に活用するとともに、日頃からの節水をこころがけていただくよう、皆様のご協力をお願いします。

平成20年7月1日（火）

国土交通省 関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所

発表記者クラブ

刀水記者クラブ
竹芝記者クラブ

横浜海事記者クラブ
神奈川建設記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所
所在地：〒371-0846 群馬県前橋市元総社町593-1

副 所 長： 斎藤 博 明
広域水管理課長： 棚澤 義 一
電 話： 027(251)2021

(参考資料)

1. 利根川上流 8 ダムの貯水量 (平成 20 年 7 月 1 日 0 時現在)

ダム名	夏期制限容量	平成 20 年 7 月 1 日 0 時現在	
		貯水量	貯水率
①矢木沢ダム	1 億 1, 550 万 m ³	1 億 1, 477 万 m ³	99%
②奈良俣ダム	7, 200 万 m ³	7, 184 万 m ³	100%
③藤原ダム	1, 469 万 m ³	1, 468 万 m ³	100%
④相俣ダム	1, 060 万 m ³	1, 057 万 m ³	100%
⑤菌原ダム	300 万 m ³	471 万 m ³	157%
⑥下久保ダム	8, 500 万 m ³	8, 605 万 m ³	101%
⑦草木ダム	3, 050 万 m ³	3, 148 万 m ³	103%
⑧渡良瀬貯水池	1, 220 万 m ³	1, 220 万 m ³	100%
計	3 億 4, 349 万 m ³	3 億 4, 630 万 m ³	101%

※弾力的運用運用量含む

矢木沢ダムは常時満水位容量

表-1 8ダムの貯水量



図-1 利根川上流 8 ダム位置図

利根川ダム統管理事務所では、利根川上流ダム群の状況等について情報提供サービスを行っています。ご利用下さい。

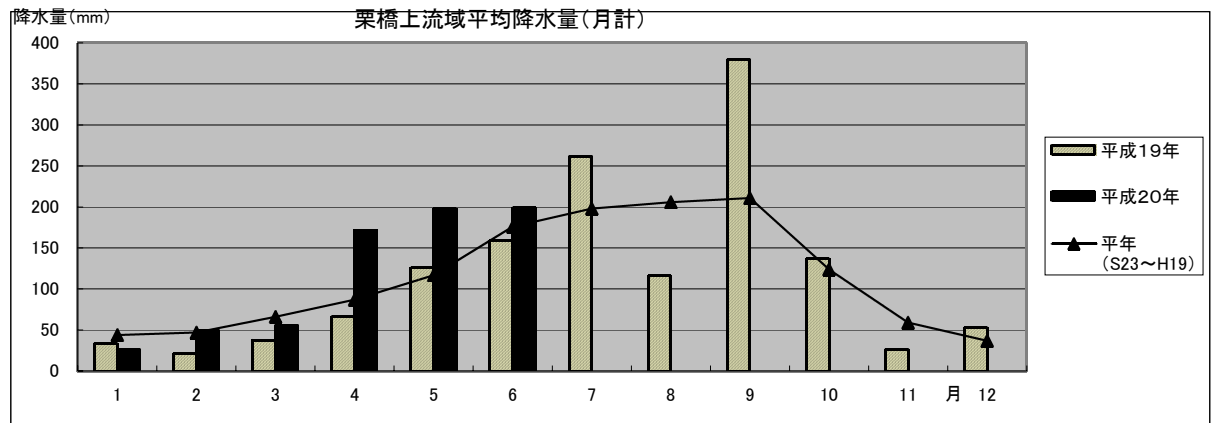
○ 電話応答 (録音) 027-255-5692

ダム貯水量・貯水率、雨量に関する情報、ダム諸量、河川に関する情報

○ インターネットホームページ <http://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/>
ダム情報、ダムLIVE情報、降水量・水位LIVE情報、雨量・積雪・降雪情報

2. 降水量状況

平成20年の栗橋上流域平均の累加降水量は、春期の1・2・3月は少雨傾向でしたが、4・5月は平年を大幅に上回っており、6月も平年を上回る降雨量となっています。



図－2 栗橋上流域平均降水量（月計）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏渇水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	〃
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	〃
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	76	23	137	176	116	367	321	173	47	22	1,572	利根川夏渇水
平成19年	34	21	38	67	126	159	262	116	380	137	27	53	1,420	
平年 (S23~H19)	44	47	66	87	117	176	198	206	211	124	59	37	1,372	
平成20年	27	50	56	172	198	199							702	
平年比	61	106	85	198	169	113								

平成20年6月30日まで

※ 利根川取水制限実施月（一時緩和含む）
栗橋上流域面積 8,588km2

表－2 栗橋上流域平均降水量（月計）

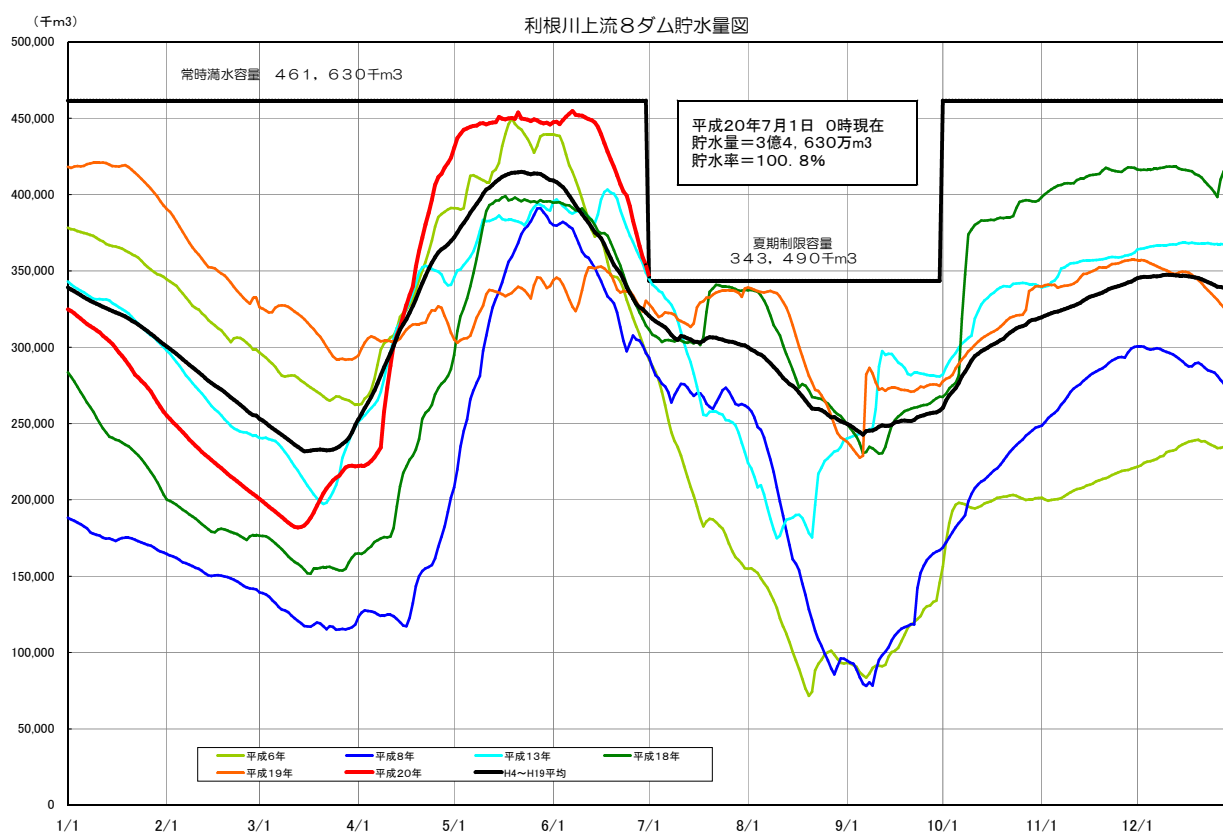
3. ダム群の貯水状況

ダムの容量は満水で3億4,349万m³ですが、最大で日約1千万m³の補給を行うため、34日程度の蓄えしかありません。利根川では、8ダム体制となった平成4年以降、夏だけでも平成6、8、13年と3回の渇水に見舞われています。

また、平成16年夏期は、記録的な猛暑と少雨が重なり、昨年平成19年には熊谷市において観測史上国内最高気温を更新するなど、取水制限を行うまでの最悪の事態は避けられましたが、利根川の水運用は厳しい状態が続きました。

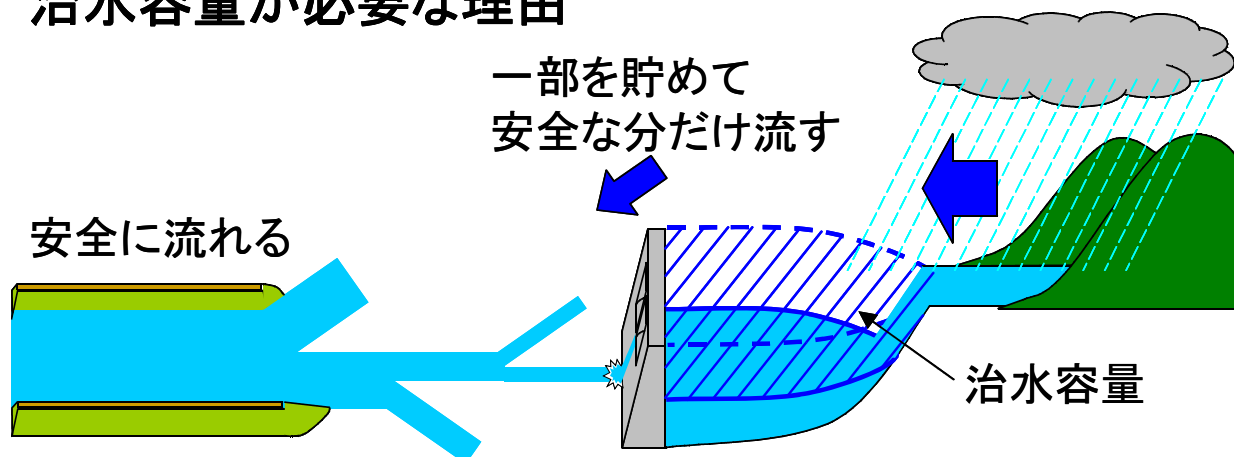
今後の降水量によっては、ダムの貯水量が著しく低下していく可能性もあります。利根川上流8ダムは、効果を最大限に発揮するよう、一元的にコントロールする「統合管理」を行っており、当事務所では、引き続き関係機関と連携し、きめ細かいダム運用を行って参ります。

図－3 利根川上流8ダム貯水量図

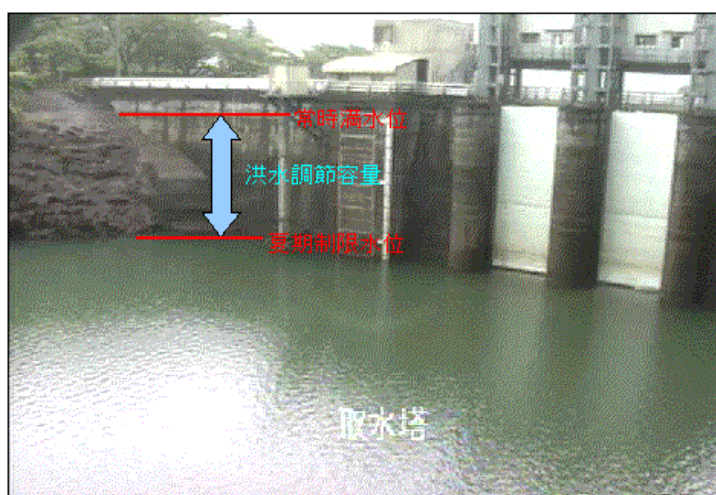


※補給とは： 上水道、工業用水、農業用水に必要な水や、河川環境確保のために必要な流量に対して不足が生じないよう、ダムに貯めておいた水を下流に必要量流すこと。

治水容量が必要な理由



4. 状況写真



相俣ダムの状況

【弾力的運用による菌原ダム下流部の状況】



放流なし



0. 3 m³/s放流後